

雪梅（方岳）

梅有り雪無ければ精神ならず

雪有り詩無ければ人を俗了す

薄暮詩成つて天又雪降る

梅と併せ作す十分の春

有梅無雪不精神 有雪無詩俗了人  
薄暮詩成天又雪 與梅併作十分春

解説 本当の春というものは自然の梅の花と、気象の雪と、人の情趣を纏めた詩と、この三者が揃って始めて味わうことができるものと述べている。

語釈 ※精神||生気があって、美しいこと。※俗了||俗っぽくしてしまふ。だめにする。※併||合わせる。※十分春||完全な春。

通釈 梅が咲いてても、降雪がなければ、風景が生き生きしない。降雪があっても、詩心が起こらないようでは、折角の風景でも人を俗なものにしてしまふ。夕暮れどきに詩ができあがった。そのとき空から雪が降り始めた。梅と雪と詩の三つを併せて、これで完全な春となり、春の情趣を十分に味わえるというものである。